

令和7年度 第1回国立大学法人徳島大学契約監視委員会議事概要

| | | |
|-----------------------|---|--|
| 開催日及び場所 | 令和7年12月8日(月) 徳島大学新蔵本部第2会議室 | |
| 委員(敬称略) | 委員長 小西 竹生 (元国立大学病院長会議事務局長) 委員 森 晋介 (弁護士) 委員 秋山 靖夫 (徳島検診クリニック事務長) 委員 三好 敏之 (徳島大学監事) 委員 井関 佳穂理 (徳島大学監事) | |
| 審議対象期間 | 令和6年10月1日～令和7年9月30日 | |
| 審議案件(/期間内対象案件) | 21件/150件 | (備考) ・意見、質問に対する回答部署 学術情報部図書情報課 経理部常三島会計課 経理部蔵本会計課 病院事務部経理調達課 施設マネジメント部施設企画課 施設マネジメント部常三島施設課 施設マネジメント部蔵本施設課 |
| 随意契約 | 9件/43件 | |
| 一般競争契約 | 12件/107件 | |
| 委員からの意見・質問及びそれらに対する回答 | 意見・質問 | 回 答 |
| | 別紙のとおり | 別紙のとおり |

●議題1 委員長の互選について

互選の結果、小西委員が委員長に選出された。

議題2に先立ち、審議対象期間の契約の傾向について、委員長から以下のとおり説明があった。

・随意契約における落札率100%は若干の減少（改善）傾向に入っている。

予算の厳しい状況下で、たとえ100%であっても、交渉により安く抑えられている事例もあると考えるため、数値だけで判断せず、交渉の結果として妥当かどうかをご審議いただきたい。

・一般競争契約における1者応札は依然として一定の割合を占めているが、昨年に比べて減少（改善）傾向にある。契約部門の努力の結果だと思われる。

続いて、令和7年1月からの契約における各課の取組について、事務局から以下のとおり報告があった。

1. 一般競争入札の競争性向上として機種選定時に複数機種で競争させる取組を行った。
2. 落札率100%の低減対策を行い、物品の交渉を中心に改善が見られている。
3. 図書の随意契約については、コンソーシアムの交渉結果以上の値引きを求め追加交渉したが、更なる引き出しは困難であったため、今後は継続してきた団体交渉に注力する。
4. その他の取組として、委員会発足10年を超えたため、他大学の事例調査も含め、より時代に即した委員会への見直しを次回に向け検討していく。

病院独自の取組として、他機関との共同価格交渉やコンサル提供データの活用を開始し、削減効果を確認した。

●議題2-1 競争性のない随意契約における随意契約事由及び契約価格の妥当性について（審議9件／対象43件）

- ・ 病院情報システム再リース（NO.1）
- ・ 教務システム及び授業料債権管理・免除システム保守業務（NO.16）
- ・ 人事給与統合システム保守（NO.17）、
人事給与統合システムクラウド運用サービス（NO.18）
- ・ 徳島大学医学部等機械警備業務請負（NO.42）
- ・ 超音波診断装置保守（NO.24）、超音波診断装置保守（NO.31）
- ・ 徳島大学（蔵本他）昇降機設備保全業務（NO.30）
- ・ 形彫放電加工機（中古品）（NO.35）

主な質疑内容、委員コメントは以下のとおり

(1) 病院情報システム再リース (NO.1)

| 主な質問 | 回答 |
|--|---|
| <p>情報システムの再リースについて、経緯と削減効果を教えていただきたい。</p> | <p>物価高騰等を鑑み、リスクはあるがシステム更新時期を1年延長し再リースを行った。このことにより年間約2.3億円に収まり、新システム更新時の年間約6億円と比較して、約3.7億円の削減効果があったと言える。保守については物品によってその可否が分かれるが、可能な範囲で保守契約を締結している。</p> |
| 主な委員コメント | |
| <p>再リースできるものとできないもの、また、すべきではないものがあると思うが、再リースについては、大学の各部局共通の事項として、他の業務システムにおいても契約期間のみにとらわれず、経費面を十分検討して活用していただきたい。</p> | |

(2) 教務システム及び授業料債権管理・免除システム保守業務 (NO.16)

徳島大学医学部等機械警備業務請負 (NO.42)

| 主な質問 | 主な回答 |
|---|---|
| <p>・契約件名を見ると、保守内容の変更があまりない分野ではと思われるが、なぜ単年度契約なのか。</p> <p>・複数年契約にすることで相手方の人件費も確保でき節約に繋がるのではないか。</p> | <p>・システムのソフトウェアのライセンス期間が1年間であることに合わせているためである。(NO.16)</p> <p>・複数年契約の交渉を行ったが、相手方が人件費の高騰等を理由に、数年後の価格を確約できないと難色を示したこと、複数年であっても価格の低廉化がないと確認されたことから断念し、現時点では単年度ごとに適正な価格で契約する形をとっている。(NO.42)</p> |
| 主な委員コメント | |
| <p>・契約書の内容に、変更申出に応じる旨の両者協議の上変更を可能とする条文などを入れておけば、複数年契約は可能だと考える。</p> <p>・機種を選定時や仕様策定時には、ある程度一連で発生すべき保守などランニングコストを見据えた全体的な内容で考えていくなど、業務多忙だと思うが、事務の省力化と経費の節減方法を案件の特性に応じてお願いしたい。</p> | |

(3) 超音波診断装置保守 (NO. 24)、超音波診断装置保守 (NO. 31)

| 主な質問 | 回答 |
|---|--|
| 保守期間が同じなのになぜ契約を分けているのか。 | NO. 31は対象機器メーカーが限られるチケット制の保守契約であり、NO. 24はそれ以外の一般的な保守契約であるため、別契約となっている。 |
| 主な委員コメント | |
| チケット制は保守ではまだ新しい方法だと思われる。今後、制度として割安なのか、割高になっていないかの目線は必要と考える。 | |

(4) 徳島大学 (蔵本他) 昇降機設備保全業務 (NO. 30)

| 主な質問 | 回答 |
|---|---|
| エレベーター保守は、いわゆるベンダー (メーカー) ロックインの弊害に陥りやすい分野であると推察する。 他大学で入札事例があるような情報に接したが、独立系業者への変更、また、病院と他キャンパスの契約分離は検討したか。 | 緊急時の部品供給や対応面を考慮し、メーカー系業者との随意契約を行っている。 最近のエレベーター導入は、建築工事の中に含めることで管理者の配置コストを抑え、ディスカウントを引き出す手法が主流。 また、一括契約にスケールメリットがあるため、契約分離は行っていない状況である。 |
| 主な委員コメント | |
| ・建築工事の中でも、将来の保守について市場調査を行うなど、経費削減に繋がる目線で考えてみてほしい。 ・独立系への変更は一般的にも広がっている。ぜひ安全性とコスト面で折り合いがつかうような交渉を進めていただきたい。 | |

(5) 形彫放電加工機 (中古品) (NO. 35)

| 主な質問 | 回答 |
|--|--|
| 中古品の活用は、経費節減効果が大い。当該中古品の状況をお教えいただきたい。 | 珍しい案件であるが、製造メーカーが自社の資産として使っていたものを購入している。 |
| 主な委員コメント | |
| 最先端技術が必要なケースを除き、既存の高性能な中古機器を積極的に活用することで、限られた予算で最大の結果を出すことができ、研究費の最適化が叶う。 | |

●議題3-1 一般競争入札における競争性の確保及び1者応札・応募の改善方策の妥当性について（審議12件／対象107件）

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院情報システム（NO.18）、病院情報統合ストレージシステム（NO.49） ・ 徳島大学病院における医事業務及び診療科等受付業務請負（NO.28） ・ 徳島大学一般廃棄物（燃やせるごみ他）処理業務（NO.38） ・ 徳島大学作業環境測定（特化物・有機溶剤濃度）業務（NO.81） ・ 徳島大学（病院）中央診療棟等空調用自動制御設備保全業務（NO.102） ・ 教務システム（NO.101） ・ 徳島大学病院放射線機器保守等業務請負（NO.63） ・ 質量分析装置保守業務請負（NO.73） ・ 医薬品（アディノバイト静注用キット 1000 外 477 品）（NO.106） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品及び診療材料の購入契約について ・ 個別事項以外での取組について |

主な質疑内容、委員コメントは以下のとおり

- (1) 病院情報システム（NO.18）、
病院情報統合ストレージシステム（NO.49）

| 主な質問 | 回答 |
|--|--|
| 「病院情報システム」仕様検討時に、「病院情報統合ストレージシステム」は盛り込めなかったのか。 | 元々、両契約は始期が異なるため別契約とならざるを得なかったところ、更新により、同時期（一括）での導入は可能となった。 しかしながら、仕様検討時において、課題であった増え続けるデータの管理に関し、システムを止めずにデータを移行でき、常に最新の状態を維持するストレージとして運用し続けることが可能な商品の提案があり、これらの検討時間の確保と病院情報システム自体の導入スケジュールとを鑑み、導入方針が承認され、別途契約とした案件である。 |
| 主な委員コメント | <ul style="list-style-type: none"> ・ 数年に一度の更新作業のために当該金額を投資する価値があるのか見えにくく、ストレージとして完全切替えなのであれば、なおのこと本体仕様に組み込んだほうがコストを抑えることができたのではないかという疑問は残る。新しいサービスの検討にかかる時間的な問題や、本契約形態となった正式な承認プロセスがあったことは理解する。 ・ 専門的な良いものだと思う。だからこそ、仕様策定にあたり、情報システム部門の方には機能面・費用対効果の両面で専門的根拠を整理してもらい、同時に、導入現場の担当者に対しその必要性を専門用語なしで説明してもらい、この両面アプローチで説得力を高めることができればよいと感じた。 |

(2) 徳島大学病院における医事業務及び診療科等受付業務請負 (NO. 28)

| 主な質問 | 回答 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・他の競合他社に参入に関するヒアリングを実施したことはあるか。・入札から業務開始までの期間(引継ぎ期間)を適切に設定するような検討はしたか。・規模の切り分けの検討はあるか。 | <ul style="list-style-type: none">・入札説明書は希望のあった複数社へ交付されたが、導入体制確保の目途が立たないとして、辞退の申し出があった。・引き継ぎ期間も含め準備期間を適切に設けた仕様となっているが、結果として1者応札であった。・業務内容によって切り分けや組み合わせを行った上での現在の仕様書となっている。 |
| 主な委員コメント | |
| 既に着手されているとのことだが、他の競合他社において大口の実績もあるため参入の声掛けを、また案件に応じて適切な部分切り出し等を引き続きご検討いただきたい。 | |

- (3) 徳島大学一般廃棄物(燃やせるごみ他)処理業務 (NO. 38)
徳島大学作業環境測定(特化物・有機溶剤濃度)業務 (NO. 81)
徳島大学(病院)中央診療棟等空調用自動制御設備保全業務 (NO. 102)
教務システム (NO. 101)

| 主な委員コメント |
|--|
| 広く公告したものの一者応札となり、競争原理は働かなかったが、実質的な要件(適正且つ安価な価格、確実な履行能力)を満たした契約であることが確認できたため、発注目的は達成できたと言えるのではないかと。 |

(4) 徳島大学病院放射線機器保守等業務請負 (NO. 63)

| 主な質問 | 回答 |
|--|---------------------------|
| 放射線関連はメーカーも多彩で相当数の機器があると思うが、一括保守なのか。 | 22機種の一括保守契約であり、2社の応札があった。 |
| 主な委員コメント | |
| 機械の違いがあってもまとめて保守契約できたとのこと。効率的な管理・情報共有が可能という点で非常に良い契約である。 | |

(5) 質量分析装置保守業務請負 (NO. 73)

| 主な委員コメント |
|--|
| 大型設備の購入時には、部局予算担当者のみならず、調達担当者も積極的に将来的な保守・運用コストを確認し先生方に伝えていくことができれば、機種選定時に、例えば機能がほぼ同等なのであれば、コスト効率の悪い機種だけではなく、長期的に見て経済的な別の機種も併せて複数選定できるよう、働きかける材料となりえると思う。 |

(6) 医薬品及び診療材料の購入契約について

| 主な質問 | 回答 |
|---|---|
| 昨年の委員会で本件に関する質問をしたが、病院の医薬品及び診療材料の購入契約について、契約先と交渉の結果等、昨年度と変更した点をご説明いただきたい。 | 現在、コンサル導入及び総合メディカルゾーンによる共同交渉を新たに始めている。 医薬品では、コンサルによる交渉支援、また、診療材料では他大学との連携によるコンサルの共同交渉及び、総合メディカルゾーンでの共同交渉により削減効果が見込まれている。 |
| 主な委員コメント | |
| 同種同効薬の採用を一本化すれば在庫管理コストも下がると考える。 | |

(7) 個別事項以外での取組について

| 主な質問 | 回答 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・一般競争の競争性を発揮するには、複数者の入札が不可欠である。 教員等に対し、複数入札が可能な仕様書の作成の重要性を理解して貰うためにどのような取組をしているか。・施設業務と調達業務の棲み分けについて（ドラフトチャンバーなど） | <ul style="list-style-type: none">・大型予算が採択されたタイミングで、予算配分を受ける部局に足を運び、研究上の支障がないようであれば積極的に複数機種の選定を、との声掛けを行った。・仕様策定委員会等の席上においての声掛けや、偏らない仕様書の書き方について、会計部門主導でドラフトを作成し指導している。・過去は施設側で導入した事例もあったが、諸処を勧告し、現在は調達側で行っている。 |
| 主な委員コメント | |
| 調達部門同士の協力ももちろんだが、施設部門との間においても組織として協力関係があれば、経費節減に役立つ案件も出てくると思われるため、そのような案件の場合は、お互いが連絡を密にし、協力して競争入札に持って行ってほしいと思う。 | |

●議題3-2 2024年度 国立大学病院長会議 検査試薬の共同交渉結果（報告）

委員長から、昨年度の契約監視委員会でも触れられたとおり、全国病院長会議にて、検査試薬のカテゴリーにおける大学病院の共同交渉が始まったこと、全国一体となって取り組んだ、初年度4月における共同交渉の概要、結果について報告があった。

●その他（徳島大学病院改革プラン）

| 主な質問 | 回答 |
|--|--|
| <p>徳島大学病院改革プラン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理費用の抑制 ・診療材料費の適正な管理と使用 ・業務委託契約における必要人員及び人件費算定の適正化について | <ul style="list-style-type: none"> ・費用抑制を目的とした仕様書の具体的な見直しとして、患者食業務の見直し（一部業務の内製化及びフードロス解消に繋がる内容の見直し）を行った。 ・診療材料の在庫を自ら抱えない取組を開始した。 ・委託業務の人件費についても、他大学のコンサル導入事例を参考に精査していけたらと考えている。 |
| <p>主な委員コメント</p> | |
| <p>実態に見合わない過大なコストがかかっていないか、現状の作業を『かけずに済む』方法に転換できないか、人件費関係については、そこしか効果が大きく現れそうなどはないと思われるのでよろしくお願ひしたい。</p> | |

●委員からの要望事項等

- ・ 過去における契約の傾向の経年変化と背景について質問があり、事務局にて確認し、把握できた範囲で後日回答することとなった。
- ・ 昨年度の委員会での要望を受け、総表（全案件を契約日順で並べたもの）のほか、落札率100%案件、1者応札案件をそれぞれ抽出した資料を用意したことについて、議題の内容について精査しやすかったとのコメントがあったため、今後も継続することとなった。
- ・ 病院を含め大学の経営は非常に厳しいことを念頭に、契約手続きを正しく行うことはもとより、更なる競争を促すことで経費を節減していかなければならないと考える。引き続き、粘り強く取り組んでいってほしい。

●その他

- ・ 議事概要を大学HPで公開することとした。